

タウンミーティング（壬生川地区）開催報告

- 日 時 令和元年 11 月 28 日（木）10 時 00 分から
- 場 所 壬生川公民館 2 階大ホール
- 参加者 壬生川地区連合自治会長、喜多台自治会長、喜多台旭自治会長、明理川自治会長、民生児童委員協議会壬生川地区会長、壬生川地区老人クラブ連合会長、壬生川地区婦人会長、壬生川小学校 PTA 会長、社会福祉協議会壬生川支部会計、防災士連絡協議会壬生川地区協議会長、交通安全協会壬生川支部支部長
市長、経営戦略部長、危機管理監、東予総合支所長、危機管理課長、地域防災アドバイザー、シティプロモーション推進課長、広聴係長、東予総合支所総務課長、総務調整係
- 傍 聴 1 人
- 次 第 1 開会
2 挨拶（壬生川地区連合自治会長）
3 挨拶（市長）
4 市の主要事業について《市提案》
（1）主要事業の説明（市長）
5 参加者自己紹介
6 地域課題①「地域防災対策」について
（1）課題等の経緯等内容説明
（2）「壬生川地区の防災対策」について意見交換
7 まとめ・閉会
（1）まとめ（市長）
（2）挨拶（壬生川地区連合自治会長）

○会議録

1 挨拶

【壬生川地区連合自治会長】

本日は足元の悪い中、自治会、各種団体、市長にも参加いただき感謝する。このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり、地域が主導して開催するものである。市長に地元へおいでいただき、市の現状や今後の市政方針の説明に加え、地域住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、私たちの声を生かした愛着の持てる地域づくりを行うことを目的としている。

壬生川地区では今年度の 2 月 2 日に第 1 回目を開催し、今回 2 回目の開催となる。前回は壬生川地区で想定されている災害についての説明があったが、今回は壬生川地区の防災対策について話し合う。市長も交えて地域とどう緊急事態に備えていくべきか各団体の意見を出し合い、次回につながる会議を皆様の協力をいただきながら進めてまいりたいと考えているのでよろしくようお願い申し上げます。

【市長】

本日は本当に足元の悪い中、朝の時間帯に出てきていただいて、タウンミーティングを開催できることをありがたく思う。

壬生川地区は昨年度も開催し、今回で 2 回目だが、今年度のタウンミーティングは、6 月 22 日からスタートして約 5 か月間で全 28 地区を回っており、今夜の徳田地区を最後に、全地区の地域づくりや、それぞれ地域が抱えている課題について、膝詰めでお話をさせていただいたことになる。

このことを契機に、これは自治会だけが、あるいは PTA だけがということではなくて、横の連携ができるようになることを期待している。地域づくりそして防災に強い街づくりということで、それぞれ地域が特色を持って取り組んでいこうという、前向きな会議になっていると思う。

また、予算に反映できるべきことは、しっかり次年度の予算に反映をしていきたいとも思っているので、一緒になって行う街づくり、そして防災に強い壬生川校区づくりのために、今日は限られた時間ではあるが、どうかよろしくようお願い申し上げます。

2 市の主要事業について《市提案》

（1）主要事業の説明

【市長】（参照別紙資料（1））

3 地域課題「地域防災」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】(参照別紙資料 (2))

(2) 「壬生川地区の防災対策」について意見交換

【参加者】

私は防災士の資格を持っており、市長の頭の痛い所だと思うが、財政が厳しい中で我々が希望しているのは、少し予算をつけてほしいということである。

今壬生川地区では、女性の防災士たちが大変積極的に色々防災について、活動されているが、基本的にはボランティアであり全て手弁当で、市からの援助は原則ない。この間も防災カフェをここでやったが、準備から非常食の試食、あらゆるものを女性部の方が自腹を切ってやられている。費用的な補助は原則ないということだが、防災に関する色々な催し物というのは、防災に関心を持って、家具の転倒防止や家の強度を強くしようということに目覚めていくきっかけになる。何年先になるか分からないが、災害の被害がある程度少なくなること(減災)につながり、西条市の財政への影響もある程度は少なくなるのではないか。

多少の補助を出していただけたら、活動が幅広くできるのではないかと思う。難しいと思うが、こちらから要求を出したら、ある程度補助なり協力をしようということにならないか。

【市長】

ここ最近、防災・減災のために、予防保全という視点が必要だということで、私たち行政の立場で言うと、国交省も含めて、治水や砂防に事前に手をかけることで、災害被害が軽減されるのではないかという考えがあり、西条市では平成16年に激甚化の指定を受けた台風災害の時に手を入れているので、昨年同じくらいの雨量が降ってもなんとか持ちこたえたと思っている。

そのように、今手をかけていくことと被害が大きくなることの額を比べたら、前者の方が効果的ではないかということで、ハード面で国へ要望したり、県へも市民の皆様の心配の声が多い中山川、大明神川の河床掘削などを関係機関にしっかり求めている。市もできることをやるということで、家屋の耐震改修や耐震診断に関しては補助をかけているが、災害があった直後には意識が高まるのでリクエストがあるが、しばらくすると落ちていくという繰り返しである。ぜひともその補助をご活用いただきたいと思う。

【危機管理課長】

防災士への補助について、そもそもの話になり非常に申し訳ないが、防災士は地域の自治会長の推薦のもと選出していただいている。やはり地域の防災のリーダーになっていただきたいということで、西条市としては防災士の育成に努めており、まずそこに力を入れている。その育成の中で、防災士が講演会に行かれるときの旅費や謝礼は市から出している。

防災士の制度は、地域の防災力を上げるために活用しているので、市としては、防災士に対してというよりは、地域の防災組織、地域の防災活動に対して援助をしていきたいと考えている。例えば玉津校区では、各自治会から防災の研修会をする自主防災会に対して、会を開いたら1万円とか、お茶代等、そういった補助をそれぞれの地域が、それぞれの単位自治会に対して出しているという事例もあるので、あくまでも防災士は地域の防災力を向上させるために活動されているという認識のもと、ぜひ地域で防災士の活動を盛り上げるようにしていただきたい。市でも例えば防災訓練を自主防災組織でするのであれば、補助の制度等も考えているので、活動していただけたらと思う。

【参加者】

基本的には防災は自助共助と言うが、色んなことをしていくためには予算も必要であるということには実感している。再度市長に要望するが、いる物はいるので、それをどう区分けしていくかを考えていただきたい。

今日は各団体から参加者がいるので、この機会にお話しさせていただくが、壬生川地区の防災士で避難所マニュアルを作ったので、今後色々ご意見をいただいこうと考えている。ただし、一番大事なのは地区の皆さんの防災意識の向上である。呼び掛けても、なかなか難しいというのが現状だと思うが、これからの地区防災計画を作成していくことになってくると、結局ここにいる各団体の私たちが担っていかなければならないのではと思っているので、長年地区防災会議を作ってほしいとお願いしているが、早く設立していただいて、計画の作成に持っていくようにリードしていただけたらと思う。

また、自主防災をしっかりとやっていかなければならないが、自主防災組織も、活発にやっているところとあまりやれてないところの温度差がある。地域、地区で防災に取り組む人材、リーダーの育成というのは非常に重要だと思う。私たち防災士もしっかり頑張って研修を進めていくが、色々調べてみると、よその自治体では地域の人材育成のため市が講座を開いているところもあり、そういったことも検討していくべき課題ではないかと思う。

【市長】

防災教育を高めることへの支援ということで、まず初めに取り組んでいたのが AG 教育（小中学生のための IT 教育）、防災に関する 12 歳教育が小学校 6 年生の時にスタートしているのに、その後消えるのはもったいないということで、中学生、高校生にも防災意識を高めてもらい、高いままスライドして地域のリーダーになってもらおうと、高校生の防災士の資格取得のサポートを西条市独自でやった結果、松山に続いて西条市は防災士の数が県内で 2 位である。

その資格を持った方がいかに機能するかというところは、西条市も力を入れなくてはならないが、例えば壬生川校区に防災士が何人いて、実際に活動しているのは何人かということを含めて防災力を高めるための協議会の内容、活動を今一度お願いをしたいし、私どももサポートしていきたい。また、防災士の防災力を高めることへの支援については惜しまないようにしていきたいと思っている。

【危機管理課長】

人材育成のための講座開催については、防災士は防災士フォローアップ講座ということで年 1 回の講座を受けられる。それから防災士が個別に県の防災リーダーの研修を受けに行くという形で、旅費等の費用を市から補助しているので、ぜひそういうものを活用していただいて、防災士の能力を高めていただきたい、それぞれの自主防災会や、自治会の推薦のもと出てきた方なので、能力を高めてそれぞれの地域の防災力の向上のためにつなげていただきたいと思う。

補足だが、例えば壬生川校区自主防災会というような校区単位で活動する自主防災組織を作れば、防災訓練等について市からも一定の補助をするようにしている。今回の防災訓練については、まだそれぞれの連合自治会が中心となった実行委員会という形なので、今回壬生川校区には補助の適用はできなかったが、実際には氷見や、橘校区は、校区自主防災会という校区単位の自主防災組織を作り、防災訓練に対して、市からも一定の補助をしている。

自主防災組織による活動を、次年度以降は全市的に広げていきたいと考えているので、ぜひそういうものをつくって、例えば防災訓練を防災士だけではなくて、地域がひとつ一体となって行う組織を持っていただいて、その中での活動に補助はしていきたいと考えているのでよろしくお願いする。

【市長】

行政が切り離しているように聞こえるかもしれないが、やはり住民の皆様の主体がなければ、行政から言っても動かない。「みんなで作る」と言う理想論だとよく怒られるが、そういうところに着手しないと動いていかないことになってきている。例えば、橘で動いている地域自治組織には防災士協議会の関係で、防災士も入っていて、防災士の仲間も地域づくりに入っている。そうすると、人数がいる時には、防災士が 1 人で汗をかくのではなくて、PTA も協力する、自治会も協力する、交通安全協会も協力する、という形の運営ができるので、よりリアルで参加者も増えることになると思う。

どうしても地域自治組織を作ってくれという話ではないが、人集めから何から防災士だけでやろうとしたらしんどいので、横の連携ができるような運営というのはこれから自助共助の意味合いでも作っていかないと、単体で頑張ろうと思うと油切れてしまうと思う。地域の防災意識を高めようというところには我々も財源を配っていくので、活用してもらおう流れができるようにしていきたい。

地域自治組織を作るまでに色々大変なことがあるかもしれないが、そこは私たちも汗をかいてまいるので、ぜひともお願いをしたい。そして財源は厳しいが、人命に関わることについては、注いでいこうと思っている。限界はあるが、生命、財産を守るのが我々の責務であるので、そこに金額は惜しまず、優先順位は高くと思っているので、ぜひとも地域住民の皆様の役割、そして行政の役割を整理しながら一緒に取り組んでほしい。

【参加者】

喜多台は災害が少ないという地域性があり、海からも山からも川からも離れていて、どちらかというと防災意識が低い地域じゃないかと思われる。しかし最近の豪雨災害等が増えてきている中で、防災意識をもう少し高めていって、いざという時に迅速に動けるような防災組織にしていきたい。

【参加者】

喜多台旭では、皆が一番心配しているのは新川の問題である。自治会館も新川の側にあるので、その辺もこれから自治会の皆さんで協議しながら災害時の対応を決めていかなければならないと思い、また必要があれば行政にも要望するのでよろしくお願いする。

【参加者】

明理川も同様で、新川のことを一番課題ではないかと考えている。

河川の氾濫のハザードマップがあったと思うが、中山川が氾濫した場合の図には明理川は入っておらず、大丈夫だと勘違いしてしまうのではないかと思う。新川が氾濫した場合にどうなるかということ、市役所で考えていただき、周知をお願いしたい。

【地域防災アドバイザー】

新川については、ホームページ上にそれぞれの2級河川等の浸水域を示したマップも載せているので、もしよろしければ、何人か集まっていた際にその資料を持って説明会にも伺う。どういうリスクがあるかは自治会ごとに違うため、その地区に合わせた資料を作って持って行くので、是非呼んでいただければと思う。

【市長】

それは、喜多台旭も同じか。

【地域防災アドバイザー】

当然呼んでいただければ全ての自治会に伺うので、よろしく願います。

【参加者】

今更かと思うが、周桑病院が指定避難所になっていないことを、我々はすでに周知しているが、地域の人と話すと、災害の時には周桑病院に行くという人がやっぱりいる。周桑病院が指定にならないのは、全国的に病院が指定にならないという規定があるのか、もしそうでないのなら可能性はあるのか。

【危機管理課長】

病院については、災害時に病院は医療活動の方が優先されるので、どうしても避難所としての受け入れは難しく、避難所には指定されていない。

今後住民への周知についても、自治会でハザードマップの再確認をしていただくとか、連合自治会の会等に合わせ、私どもで資料をお持ちし説明させていただくなど、自治会長にはご足労をかけるが、よろしく願います。

【参加者】

一時避難もだめなのか。

【危機管理課長】

一時避難については、開いているので入ってくる方を受け入れないという訳ではないが、対外的に避難所として受け入れるということになれば、そこに人が来て、そこで滞在するということになる。一時的な津波からの避難や浸水からの避難で病院に行かれることは構わないが、対外的に避難所という形はどうしてもとれないのでご理解いただきたい。

【参加者】

老人会で、水害を受けた大洲に行って、現地の方の話も色々聞いたが、70歳くらいの方が、「自分はお嫁に来て初めてこんなに雨がたくさん降った」と言っておられた。被害を受けた人達はそのことに対して真剣に考えているが、壬生川ではこれまでそういう事がないので、危機感がないと思う。もう少し一人ひとりが災害はいつか来ると思って勉強するべきだと思った。

【参加者】

私自身も含め、子ども、その親、PTAも意識が低いのではないかと思うことが多々ある。確かにテレビで見ると大災害というのは、ひどいなとは思いますが、こちら辺は大丈夫という気持ちがやはりどこかであると思うので、私自身ももっと防災が大事だと思わないと子どもたちにも広がらないと思う。今日勉強させていただいたことを私自身がもう1回腹に落として、学校、子どもたちに伝えるようにしていきたいと思うので、また何かわからないことがあればよろしく願います。

【参加者】

私の記憶でも、喜多台は台風では少しやられるときもあるが、自然災害が今まで少ないところだと思う。喜多台は字のごとくちょっと地形が高いというか、新川が切れても喜多台までは今までは水が来なかったという記憶がある。住民の意識を高めていくため、今からは自治会単位で防災士も含めて皆で頑張りたいと思う。

【参加者】

中本地区で今回12月1日に防災訓練を予定しているが、私たちが部落で集まる場所はお寺で、お寺に皆が集まってそれからどこへ避難するかがわからない。皆に聞くと小学校へ避難するとか、公民館へ避難するとかまちまちなので、できれば避難訓練でお寺へ集まるのではなく、小学校なら小学校へ直接集まるような訓練をすべき。各地区同じだと思うが、直接避難所に集まって、必ずここへ避難するんだという決め事をはっきりさせてほしい。でないと、防災訓練でお寺へ避難するようにしていると何かあった時に必ず皆お寺に避難すると思う。

【危機管理課長】

12月1日の防災訓練のみならず災害の考え方が、まず地域のことは地域で守っていただくというのが原則になる。自分の命は自分で守る、その後、地域の命は地域で守る。その地域がどこで点呼を行うか、学校まで近い所は学校がいいが、学校から離れているような地域については一度近くのお寺などで、地域

の方が大丈夫なのか、大丈夫でないのかということ把握しないとならないと思う。それぞれの地域で皆が集まって人員点呼や安否確認ができる場所をまず決めておき、そこで皆が集まって、例えば家の下に埋もれている人や、逃げられなくなって困っているお年寄りの方への対処をしていただいて、そこでまず自分たちの地域の安否確認をしていただく。

その後、例えば公民館であるとか、連合自主防災会であるとかに連絡をして、自分の地域ではどうにもならないということになれば、今度は壬生川校区全体の自主防災組織で動いていただかなければならないので、その核となる小学校に集まっていただくという流れに災害時にもなるかと思う。

現実に即した形で、実際に地域の方の安否確認をするところということで、お寺を指定し、そこで人数確認をして、代表者の方が報告に小学校まで来ていただくという流れにさせていただいており、現実的にも公民館になるか小学校になるかというところは、なかなか難しいとは思いますが、そういった災害時に即した流れで訓練をさせていただいているので、ご理解いただきたい。

【参加者】

今の話で、中本町はたぶん40軒くらいあると思うが、40軒が全部集まって全員の確認というのはおそろく無理だと思う。私の地域の本町本心会は10軒の小さな町内会で、ちょうど真ん中に本源寺というお寺があってそこへ集まることになっており、これはおそらく全員徹底すると思うが、先日、壬生川地区の10軒程度の町内会の人と話した際、避難場所も知らない、そういう組織があるのも知らないということもあった。少ない数でも徹底できていないのに、40軒で安否確認は無理だと思うので、組で避難場所を決めて10軒単位くらいで集まるようにしたらいいのではないかと。

【危機管理課長】

避難については、地域でどこが適当か、集まりやすいかということのを、考えていただくということなので、ぜひこれを計画に盛り込んで最終的には地区防災計画でしっかり決めていただき、皆が動けるような形にしていきたい。それに合わせて、体の不自由な支援が必要な方については、名簿の作成を市で取り組んでいるので、ぜひそういった名簿を活用して、事前にこの方は誰が声掛けをしに行くということも地域で決めていただければと思う。私共も説明に伺うのでそういう機会も与えていただきたい。

7 まとめ・閉会

(1) まとめ (市長)

【市長】

今日は本当に感謝する。今日は防災に特化をした形だったが、これから行政運営をしていく中でのヒントもいただいた。何よりこの地域の皆様の生命、財産を守るのが、我々の責務であるので、今日のように耳を傾けていくのが自然の姿だと思う。

限られた財源に優先順位をつけるならば、防災が上位であるのは当然のことだと思うので、できる限りのことをしてくというのが我々のスタンスである。やらなければならないことは全てやっていくが、市民の皆様の協力、協働なくしては成り立たないので、ぜひとも地域の皆様のご協力もいただきながら、双方にキャッチボールしながら進めていきたい。

今、大町校区が前のパナソニックのところに来たレグザムという企業とタイアップをしており、防災のこと、地域づくりのことにも、レグザムが協力してくれたり、レグザムもメンバーに入れたりという形で運営をしているので、例えばフジボウさんと連携を図るということもひとつ壬生川校区らしさではないか。企業へのアプローチもあってもいいのではと思う。

行政が抱える課題というのは非常に多岐にわたっているが、やはり壬生川に住んでよかったと言ってもらえるように頑張らなければならないと、気持ちをまた新たにして、私の任期を全うしていきたい。これからも行政になんなりとご要望いただければと思う。また、自治会、社会福祉協議会、婦人会、PTA等が個々の組織だけで取り組むのではなく、連携を図っていくのがこれから大切だが、そうすることによって皆様も少し気が楽になることもあるかと思う。皆でやろやという雰囲気作り、これが今から求められていると思っているので、ぜひとも今日をきっかけに横の連携も意識していただけるとありがたいと思う。駆け足の時間だったが、本日は感謝する。

(2) 挨拶

【壬生川地区連合自治会長】

本日はお忙しい中、市長や地域の皆さんに出席いただき壬生川地区に関する防災対策について、課題や取り組みを皆さんと話し合うことができた。防災対策は命に係わるとても重要な事案であり、今日の話し合いをもとに、壬生川地区でも各自治体や団体、自主防災組織が一体となり地域全体で災害に備えなくてはならないのではないかと。皆さんの各自治会、各団体に帰られて、今日の会話を皆さんに伝え、それぞ

れの団体で考え話し合いを広げていただきたいと思います。一つずつよりよい対策を積み重ねていけるよう話し合いを続けていきたい。

また行政の皆さんには活動に際し、色々相談や支援をお願いする。今後も市と協力しながら、住民同士が支えあい災害に強い地域づくりを目指し、地域自体を盛り上げていけたらと思う。皆さん、本日は感謝する。

以上

タウンミーティングの様子>

